

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を目に入りやすい所に掲示し、その理念のもと、利用者が笑顔で安心した生活環境で過ごしていただけるよう実践につなげている。	『笑顔で安心一緒に暮らそう。あなたと私ずっと家族だよ』という開設時から掲げている理念を基に、ご利用者の笑顔、職員の笑顔を大切にされたケアを行っています。また、事業所内の各所に理念を掲示してあり、理念を実践できるように努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為、交流が困難だが、行きつけの美容院等に行ったり、来ていただいたりしながら、コロナ禍でもできる限り繋がりを絶たないようにしている。	今年度は新型コロナウイルスの影響で自粛していますが、例年であれば、歌や踊りのボランティアの方に来ていただいたり、中学生に体験学習に来ていただいたり、近隣の事業所と交流会を開催するなどして、近隣の方々とは日常的に交流し、馴染みの関係ができています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現状全てのボランティア受け入れが困難となっているが、地域の人や外部からの相談等に応じたり、家族向けのお便りに写真を添付して送ったり、運営推進会議資料の配布理解してもらえるよう実施している。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為、運営推進会議の資料を配布し開催と同義とさせてもらい、質問・意見等、随時対応できるように職員も目を通し、共有している。	運営推進会議は新型コロナウイルスの影響で民生委員や近隣の住民、市の担当者や地域包括支援センター職員、ご家族に2ヶ月に1度、書面にて事業所の状況報告を行い、頂いた意見はしっかり受け止めて向上するように努力しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	代表者・ケアマネを中心に連絡を取り合い、認定調査の日や、来所の機会のある市町村関係者等に取り組を話したり、密な関係を築けるよう努めている。	市の担当者や地域包括支援センター職員には運営推進会議にて事業所の状況報告を行い、意見やアドバイスも頂いています。また、事例の相談や不明な点について連絡を取り連携が図られています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々、意識話し合い、相談することで玄関の施錠を含め、しない様に努めている。やむを得ない場合などにはご家族への相談、許可を得て行う場合もある。	ホームとして身体拘束は行わない方針ですが、やむを得ず身体拘束を行う場合もご家族の同意を得ています。玄関の施錠も夜間のみとし、マニュアルを整備し、身体拘束に関する検討会も行ない、身体拘束をしないケアに努めています。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	何気ない日常会話の中でも起こりうることで、疑問な点は話し合い、身体の異変、言葉等観察し、また職員の言葉づかいも虐待にあたることをないように考え、協力し合って防止に努めている。	管理者・職員は、グループホームの密室性が虐待につながる可能性をよく理解しており、マニュアルを整備し、虐待防止に関する検討会も行ない、防止に取り組んでいます。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の資料を玄関ホールに掲示したり、新人研修にも取り入れ、実際に活用している方を確認したり、研修等参加が難しい現状で、職員同士知識・意見交換をし、支援に繋げている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書に沿って説明させていただき、本人・家族の思いに添えるように努めている。また、契約時にはご家族の不安や、疑問に耳を傾け安心できる様な説明を心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍の為、面会に制限がある中で、毎月のお手紙で様子をわかりやすく伝えたり、玄関に意見箱を設置したり、必要時には連絡を取りあい話し合うことで意見交換ができてその内容を職員で共有している。	毎月のお手紙や事業所の広報もお送りし、情報提供を行っています。苦情などは寄せられていませんが、玄関にご意見箱も設置し、面会時に確認したご家族の要望を実際に活かしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングの議題担当をもちまわりにして、提案・改善案を話しあって反映できるところは実践に向け、検討し合っている。	職員が日頃の気づいた点も改善提案を行っているほか、毎月ミーティングを行い、職員の意見を吸い上げるようにしています。社長、管理者も個別面談の機会を設け、職員とも業務の中で意見交換を行ない、対応するようにしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	無理のないシフト作成や個々の急な要望や子育てしながらでも、働ける環境の整備がされていると思う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍の為難しいが、外部研修の揭示や資格を取る為の研修参加に配慮されたり、実務の中で資質向上を進められている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で直接の交流は難しいが、地域独自のネットワークに参加し、資料での配布交換をしたりして、相互の質向上に努めている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の訴えに傾聴の姿勢で関り、できるだけ本人の要望に応えられるよう共有し、安心するような声掛け、言葉がけに努め、信頼関係づくりを努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面接の際、本人・家族の思いに耳を傾け、利用が始まってからも連絡を取り合い、利用者の様子やご家族のご意見など聞いて相互により良い関係を気付いていると思う。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談、話し合いの中で「必要なこと」を十分理解し、サービス計画書にのっとり、サービスを提供すると共に、のちに必要となるニーズにも応えられるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護者という立場の中でも家族のような関係を築いていくと共に、利用者の「役に立ちたい」という気持ちに感謝を忘れずにお手伝いをしてもらったり、相互に良い関係を築いている。		
19	(7-2)	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の状況などお手紙や必要時には連絡を取り一緒に関わっていけるよう努め、職員でも、家族の一員のように本人と家族の架け橋に慣れるよう努めている。	事業所広報の「あったか通信」と担当職員が作成するお手紙を毎月送付しているほか、日頃からよくご家族とコミュニケーションが取れており、外出・受診の支援もご家族の協力をいただくなど、一緒に支えあうことができるよう関係づくりに努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍でもできる限り、感染予防に配慮して、馴染みの美容院に行かれる配慮をしたり、ドライブに出かけたりと利用者と地域との関係が途切れないよう努めている。	親族の方に定期的に面会に来て頂いたり、テレビ電話を使用して面会をしたり、個別支援で行きつけの美容院を利用したりと今までの関係継続支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間でより良い関係が築けるよう配慮はしているが、難しいところもある。なるべく孤立しないように関わり、食席やイベント時には気の合う仲間と楽しく過ごすことができるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつでも相談、連絡をして頂けるような関係を築けるよう努め、ご家族の不安解消の手助けができたかと思っている。今だに亡くなられた利用者のご家族から送られ物が届くと嬉しく思う。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションの中で思いや希望を傾聴・把握し、本人本位で検討し、記録に残し、共有・実践に向けて努めている。	散歩に出かけたい方、自宅へ行きたい方、畑をしたい方、ご本人が話してくれたり、訴えてくる希望に添えるように日々の生活の中で聞こえてくる会話なども耳を傾けて把握するようにしています。また、センター方式の書式を使用し、日々の生活のなかで得た情報を職員間で共有し、支援できるようにしています。	調査時点で介護計画に関するご家族の意向確認がいつ、どのように行われてるか不明でしたので、今後記録に残されることを期待します。
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報から以前の生活環境等を把握し、居心地の良い環境作りを目指し、日々の生活の中からでも取り入れられるようにしている。	事前面接の際にご家族やご本人に聞きながら情報を集めたり、入居前のケアマネに教えていただいたり、面会に来ていただいた友人から教えてもらったりと情報の把握に努力しています。また、定期的に情報の更新の機会も設けており、職員間でも情報共有できるように努めています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を観察・把握、記録することで共有し、その人らしくできることを見極めて、負担のない過ごし方を目指し、その都度検討を重ねている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月実施されるミーティングやセンター方式で検討し作成に反映している。現状に即した計画書が作成され、コロナ禍の為、計画書はご家族に送付し同意を得たものとしている。	毎月の会議にてカンファレンスを行い、3ヶ月に1回は定期的にモニタリングも行っています。ご家族の要望も確認し、プランに取り入れ、日々のサービスに繋げています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録や相談することで職員間で共有に努めているが、十分ではないこともあるので改善していきたいと思っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できるだけニーズに応え、ご家族の協力も仰ぎながら、柔軟な対応ができるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行きつけの美容院に行ける手配をしたり、相談のもと一緒に買い物に出かけたり、馴染みの場所へ行ったり、昔の話を聞かせてもらったりと、楽しく過ごせるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に主治医・協力医の説明をすると共に、月一回の往診時には現状報告をし、常に適切な医療を受けられるように支援している。	協力医以外の受診は基本にご家族にお願いしています。医療機関には受診連絡表を渡し、情報提供を行なっています。月に1度は往診に来ていただいております。連携を図りながら対応しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調変化の際には主治医にFAXをし、先生、または看護師からの指示を仰いだり、チームで共有し、適切な受診に繋がれるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	付き添いを始め、カンファレンスに参加し、関係づくりに努めている。容体を伺える機会等あれば積極的に聞いて、今後の対応に反映させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の際に説明し、看取り確認書をチームで共有し、早い段階から本人・家族との終末期の在り方を共有し、その日の容体にあった柔軟な対応に努めている。	契約段階で管理者は、ターミナルまで支援することを前提としたホームであることを伝え、看取りの指針やマニュアルを整備しています。また、ホームでできること、できないことを明確に示し、ご利用者の状態に応じて主治医、ご家族とその都度話し合いを行っています。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	コロナ禍で、研修の機会がなかったが、最低限の対応力は身につけていると思う。学んだことを実践でも落ち着いてできるようにしていきたい。	全職員に普通救命講習の受講を勧めており、急変時に適切な初期対応ができるようにしています。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回行い、避難マニュアルも確認しながら適切な対応ができるよう努めている。また、ミーティングの時などに、利用者にあった避難の仕方や行動を話し合っている。	避難訓練を年2回実施し、運営推進会議に参加してもらっている近所の方々には非常時の際の協力を依頼しております。また、非常用の食品についても定期的に点検しています。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として関わること、個々の暮らしや思いを尊重し関り、一人一人にあった対応、言葉がけを実施している。	広報誌への写真の掲載は入居の際に同意を得てから行なわれており、声かけも方言を使用してもきつい言葉にならないように配慮し、支援が行なわれています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、着替えを選んでもらったり、会話から何をしてほしいなどを導き出し、自己決定を促し、何気ない一言にも耳を傾けられるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズムを大切にし、一人一人のペースに合わせた対応を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の気候に合ったものを本人と選んだり、着替えを手伝ったり、整髪を促したりして身だしなみの支援はしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	お手伝いを交えながら作ったり、食べたりしている。誕生日や特別の行事時には好みの物の提供や季節に合った材料を使い、楽しく助け合いながら準備、片づけをしている。	ご利用者にもできる範囲で調理や味付け、後片付けなどにも参加していただいています。また、誕生日には希望食を取り入れたり、ご利用者と一緒にかまき作りやおはぎ作りも行われています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事量や状態に応じた形態を工夫し、食事量や水分摂取量などを記録に残し、共有することで一人一人に見合った摂取量を随時検討し提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後殺菌作用のある紅茶を用いてうがいをしてもらっている。自力での口腔ケアができない方に関しては、口腔スポンジを使用して、衛生ケアをしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	難しいところもあるが、個々の排泄パターンの把握に努め、トイレの声掛け等実施している。リハパン等が必要かどうか話し合いながら支援し、本人の負担にならないように努めている。	必要な方には排泄チェックを行ない、一人ひとりに合わせた適切な誘導、支援をしており、職員のさり気ない見守りや声かけで気持ちよくできています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分摂取量を確認はしているが、難しい時は主治医相談のもと便通薬を処方してもらい、調整しながら、服用の支援をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の入浴方法や支援方法を理解し、ゆっくりと入浴できるような支援に努めている。必ずしも要望に応えられる訳ではないが、リフト浴も取り入れ、無理なく個人のタイミングで楽しめるように支援している。	ご利用者の要望を考慮し、入りたいと思う時間に入っていただいている方もいます。入浴を嫌がる方には声かけのタイミングを変えるなどして入浴をしていただけるように努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温管理に留意し、必要に応じて声掛けをしたり、心身を少しでも休めることができるような環境整備に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人一人に薬担当者を決め管理し、個々の内服薬の理解に努め、誤薬を防止すると共に主治医と連携しながら、状態変化時の対応や支援に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人にあった役割を見つけ、張り合いがあり楽しく過ごせるようにしている。嗜好品など取り入れたり、趣味を楽しめるようにしたり、工夫している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出の機会は減ったが、少人数でのドライブやピロティーでの日光浴などで気分転換を図ったり、人込みを避けた外出に気を配っている。家族からの要望にはできるだけ応えられるようように上司の指示を仰いでいる。	今年度は新型コロナウイルスの影響で自粛していますが、例年であれば、日常にご利用者と一緒に近くのスーパーに食材の買物に出かけているほか、季節に合わせてお花見や紅葉見学、コスモス見学にも出かけています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人や家族の理解のもとに所持や使うことを支援している。自分で管理できる方は所持しているが、他の方は職員で管理し、買い物代行など支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	身内からの電話を取り次いだり、かけたいときは職員、上司に相談して支援している。電話は聞き取りにくい時は職員がつなぎ役として間に入り、上手く会話が弾むように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地よく過ごせる共有空間であるように工夫している。排泄臭などには消臭効果のある煎茶を煎って対応し、時間帯に合わせて照明を調整したり、不快な音を立てないように努めている。	全体的に木材を取り入れた温かみのある内装になっており、飾られている写真や装飾品も家庭的です。食堂のテーブルも一般家庭と同様のものを使用しており、季節の花も飾るなどして、居心地のよいリビングになっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その空間にとどまらず、居室を始め、食堂、サンルーム等思い思いに過ごしてもらっている。利用者同士で楽しく過ごせるよう、個々の性格を把握し、共有空間の中で楽しく過ごせるようにしている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていたものを置いたり飾ったりして頂いている。ご家族や動物の写真などを飾って楽しんだり、居室整備やベッドメイキング等、快適に過ごせるように努めている。	居室には、ベッドやテレビなどをご自宅から持ち込んでもらっています。また、ホームでの写真や家族の写真、カレンダーを飾るなどして、その人らしい部屋作りの工夫をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には個々の名前を、トイレなどにも表示をして、利用者さんにもわかりやすく工夫している。できることを見極め、見守りながら安全な環境の中で生活が出来るように支援している。		

**V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				